

老生が

伝統文化・能楽を体験

謡などを実演



「羽衣」の謡に挑戦した参加者

福山市老人大学（福山市地吹町、閑谷雅行学長の生徒が二十一日、福山市光南町の喜多流大島能楽堂で能楽体験をした。昨年から授業の一環として実施している。午前中は普通科の学生など約百六十人、午後からは研究科の学生が参加し、日本の伝統文化を体験した。

講師は喜多流シテ方の大島衣恵さんらがつとめた。大島さんは能は室町時代に観阿弥・世阿弥によつて完成した伝統芸能であることなどの歴史から説明。能舞台に描かれ

る松の図が八百万の神が宿るところであることを表わしているなどと説明を行なった。

その後、実演に移り参加者は謡や囃子の体験もした。謡では「羽衣」の一節を実演したが、大島さんから「呼吸を深くとることが大事」などと指導を受けた参加者はしつかりと声を出して歌い上げていた。また囃子の実演では参加者の中から三人が壇上に上がり、小鼓を演奏する体験をした。

back

08/05/23 大陽新聞